

震災の記憶

蕪島はここ数十年で二度の大地震とその後に発生した津波の被害を受けました。一度目は 1933 年 3 月 2 日にこの地域を襲った昭和三陸地震です。二度目は 2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災で、東北地方の大分部、特に三陸沿岸の地域が壊滅的な被害を受けました。このパネルと下の写真は、2011 年のあの日にこの地域が被った被害を示しています。

写真には、強大な波が海岸沿いの建物を破壊し、港の船を流失させた様子が写っています。波は蕪嶋神社の鳥居からわずかに数段下の位置を超えて押し寄せ、丘の頂上を取り囲むフェンスを破損させたものの、鳥居自体は持ちこたえました。

地震発生から 2 週間後、約 3,000 人のボランティアが損壊した建物や瓦礫の片付けを行いました。神社へと続く階段には、それぞれ昭和三陸地震と東日本大震災による津波の際の冠水水位を示すプレートが設置されています。

蕪島のある種差海岸地域を指定範囲に含む三陸復興国立公園は、2013 年に設立されました。Reconstruction または recovery という意味の「復興」は、現在も続く三陸地方の復興に向けた取り組みの一環としてのこの国立公園の役割を示しています。

2011 年の震災と津波は東北地方に消えない爪痕を残しました。震災後何年もの間、八戸地域の人々は身の周りの自然を尊重し大切にする環境を醸成するとともに、2011 年の悲劇が与えた試練とそこから得た教訓が決して忘れられることのないよう、懸命に努力してきました。